

鹿内一生(勝男)

鹿内一生の本名は勝男で、大正 14 年、旧荒川村に農家の三男として生まれた。小学生の頃からねぶたを作り始める。最初は東京で就職したが事情により帰郷し、さまざまな職についたが肺結核を患う。この間絵の勉強をしている。

本格的なねぶた作りに手を染め出したのは戦後まもなくからであった。同郷の川村伯鳳に手伝ってねぶたを作ったのは一回だけだったが、一生は伯鳳を師匠としている。24 歳のとき青森市漁協に勤務するが、ねぶた師としての道をめざして退職し、他の仕事で食いつなぎながらねぶたを作り続け、昭和 40 年に消防第三分団に組の「三国志呂布関羽奮闘の場」で田村磨賞の栄誉に輝いた。次いで 44 年から 3 年間田村磨賞を独占する。特に 45 年の「項羽の馬投げ」(青森市役所)は今でも語り草だという。しかし、肺結核が再発し、ねぶた作りも思うにまかせなかった。

一生の業績のひとつは弟子の育成であった。「我生会」はそういう弟子の集まりである。自分のねぶたを次第に弟子たちに譲り一人立ちさせていった。平成元年まで県庁のねぶたを作ったがこれが最後であった。平成 3 年に逝去。

青森ねぶた誌(平成 12 年 3 月 31 日発行)から